

第47号  
2022年 9月 1日

○発行  
650-0004  
神戸市中央区中山手通  
7丁目25-38  
神戸真生塾広報誌編集係  
TEL (078) 341-5897  
FAX (078) 341-8239  
E-mail:kouhou@kbsheinsei-j.org

○振替口座  
郵便振替01100-8-18680

## 「子ども」から

### — 故富川和彦理事長の志を受け継いで —

日本基督教団同志社教会牧師

神戸真生塾 理事長 菅根 信彦



神戸真生塾の施設長として、ま

た、その後は理事長として子どもたちや職員のために務められた富川和彦さんが神の許に帰ったのは、2021年10月16日(土)の早朝のことでした。長らく患っていた直腸がんが進行し、最後は三菱神戸病院の緩和ケア病棟に入院し、静かに息を引き取りました。亡くなる前日まで穏やかな体調が続いていましたが、突然の急変、お別れとなりました。訃報に接した時、あの元気で常にポジティブな富川和彦さんが「まさか」という思いにかられました。しかし、病院でお顔を拝見した時には、穏やかなお顔で、確

かに神の許に安らかに帰られたのだと覚えしました。人間は最後には「力を捨てよ、知れ私は神」(詩編46篇11節)の言葉のように、自分の中にある全ての力を捨てて、神に委ねざるを得ないものであることを覚えてきました。78年の生涯でした。

富川和彦さんは1943年(昭和18年)1月26日、長崎の三菱製鋼に務められていた父富川直正、母子の5男として生まれました。2歳になった1945年(昭和20年)8月9日に長崎に原爆が落とされ、父直正さんを亡くしました。その後、1948年(昭和23年)5月に母京子さんの出身である神戸にもどられました。京子さんは、当時、神戸教会の水谷愛子さんが塾長として運営されていた神戸真生塾の寮母として働き、ご家族と母子寮での生活が始まりました。そして、神戸教会との関係が生まれました。

富川和彦さんは兵庫県立工業高校在学中の1960年(昭和35年)12月25日に児玉浩次郎牧師から洗礼を受けました。その当時、神戸教会では「地の塩会」「子羊会」など中学・高校生の会が活発で、その教会での交流は生涯続いていきました。卒業後、三菱重工に入社。

人、2017年に先に亡くなられた理事長であった富川直彦さんの兄弟二人三脚での働きがありました。社会的養護の必要な子どもたち、児童養護の使命に生きられました。同時に、現在の上杉徹施設長をはじめ、次の世代を担うリーダーたちを育てていきました。

長崎勤務となりました。その後、1966年(昭和41年)12月25日に神戸教会で優子さんと結婚。その後、長崎勤務の後に大阪支社に戻り原子力課に配属されて営業に専念しました。その後、早期定年退社、第2の人生とも言うべき、社会福祉法人神戸真生塾への勤務となりました。そこには、当時の神戸教会の岩井健作牧師の促しがあり、理事長の今井鎮雄さん、顧問の阿部志郎さんの支えがありました。通信教育で社会福祉学の勉強を続けながら、最初に手掛けたのは阪神・淡路大震災の被害を受けた建物の全面改築でした。さらに、「子ども家庭支援センター」「真生きらきら保育園」の設立、「神戸市立自立援助ホーム子供の家」を垂水に開設、そして、「愛こどもクリニック」の開設など、次々に事業を拡大し現在に至っています。もちろん

思い出深い出来事は、2010年(平成22年)4月18日に開催された「創立120周年記念シンポジウム」でした。「児童福祉・社会的養護を地域に拓く」とのテーマで、神戸国際会議場で挙行されました。神戸市長のほか、各界の福祉事業や国の福祉行政をリードする方々をシンポジストにして、全国から児童福祉に携わる関係者が集まりました。その企画・準備そして、総合司会を富川和彦さんが行いました。一児童福祉施設が神戸からメッセージを発信する大変意義あるシンポジウムとなりました。しかし、5年ほど前に癌を発病されました。大きな手術をなさり、その後も治療に励みながら職務を全うされました。神戸YMCAや神戸婦人寮の働きを合わせて、その賜物を豊かに用いて、今を精一杯生き抜かれました。お酒を嗜み、若い職員との交流を大事に

されました。全ての力を出し切った生涯でした。

この間、キリスト教主義の福祉施設として、その根本精神である聖書のメッセージを大切にされました。特に、「子どもを招き祝福するイエスの物語」(マルコ福音書10章13〜16節)を取り上げて、機関紙「愛」で何度かその思いを伝えていきます。子どもの存在など価値無き者として見られていた2000年前、イエスは子どもの存在こそ、神の国の中心であることを訴えました。富川和彦さんはこの物語から「子どもに学ぶ」というメッセージとして受け止めました。アジアで最初にノーベル賞受賞したインドの詩人タゴールが「全ての子どもは神様が人間に絶望していないことを伝えるために使わした使者である」と語りましたが、子どもの中にある希望を、和彦さんは「子どもに学ぶ」と語ったのではないのでしょうか。そして、一つのエピソードを伝えていきます。「ある日のこと、幼い一人の子どもが両手を後ろに組んで、体を左右に捻りながら職員に叱られています。子どものしぐさを見ると反省の意は見えませんが、そこで職員は、その子をそっと抱きしめました。す

ると、その子は大粒の涙を落としはじめました。その子は十分にそこで反省しました。大きな児童の場合にはそうは行きません。職員の方が涙ぐんでしまいます。しかし、そこでその児童はそれを見てはつとずるのです。決して子どもたちと大人たちを駆け引きではなく、互いにそのままを受け入れる、そんな関係づくりが大事である」と、このように語っていました。聖書はこのように神と人、人と人とのそのままを受け入れる関係こそ「愛の世界」「神の慈しみの世界」であると伝えていきます。富川和彦さんは人生の後半、社会の中で、最も弱い立場にある子どもたちと共に生きられました。おそらく、神様は、子どもをぐっと抱きしめた職員さんのように、富川和彦さんの霊と魂をぐっと抱きしめ、愛と慈しみで満たし、永遠の安らぎへと導いてくださったと思います。富川和彦さんの祈りと志しを受け継いでいきたいと思います。



# 児童養護施設 神戸真生塾

## 表彰

### 第2回 ひょうご福祉の現場 若手リーダー賞 受賞

黒田 祐加

この度、第2回ひょうご福祉の現場若手リーダー賞を受賞させて頂きました。




私一人では、このような素晴らしい賞を受賞する事は出来なかつたと思います。困った時に助けてくれる同僚、ちよつとした変化に気がついてくれる子ども達。周りの支えがあったからこそ、受賞す

する苦勞や悩みを聞かせていただき、これから里親さんと共に歩んでいく、里親支援専門相談員としてどのようであるべきかを改めて考える事が出来たと思います。神戸真生塾のサロンだからこそ、子どもも親も安心して参加出来るという、温かいお言葉をいただいた事は、相談員として大きな励みになりました。これから里親さんや子ども達にどのように寄り添った支援が出来るか、里親さんのニーズに答える事が出来るか、これからの里親支援の在り方を、神戸真生塾として考えていきたいと思ひます。そして何かあった時は気軽に「相談してみようかな。」近くに来たからちよつと寄ってみようかな。」と思つていただけると、今後の支援機関となれるよう、今後も努めて参ります。

いつでも相談できる身近な  
里親支援機関を目指して

……みつばちサロン」

金岡 美衣



5月29日、みつばちサロンをを行いました。とても暑い日でしたが、2年ぶりの開催に、7組の里親さんと子ども達が参加してくれました。懐かしいきらきら保育園の園庭で走り回って遊んだり、宝探しゲームを楽しんだり、施設にいた時の担当職員と久しぶりに再会し、思い出話に花を咲かせながら、子どもの成長を共に喜び合う時間になりました。また里親さん同士が日頃の悩みを共有し合う場にもなっていました。子どもの成長を感じながら、里親さんの直面

みつばちサロンとは…神戸真生塾から里親家庭で生活している子どもとご家族、または神戸真生塾子ども家庭支援センター等の各種事業を利用された里親家庭の皆様が集います。



# 乳児院 真生乳児院

## 各グループ便り

### \*こあらグループ\*

こあらグループは1歳から4歳までの元気いっぱいの子ども達が多く、9名生活を共にしています。子どもたちは外遊びが大好きです。外へ出る前からワクワクしている子どもたち。「お外行こう」の声掛けに年長児は靴下を履き身支度を済ませると年少児に靴下を手渡ししてくれたり、靴を履かせようととお世話をしてくれます。ほほえましい場面が垣間見られ、心がほっこり温かくなります。

院庭に出るとランタナや植木鉢を動かしてアリやだんごむし等の小さな生き物を探して観察したり、大事に手のひらに乗せてお友だちや職員に「見て見て」と見せてくれる子、「一緒にご飯作ろう!」とお友達を誘い合いおまごを楽しくむき、手押し車に座る1歳児に怖がらないように声を掛け、ゆつくりと押して遊んでくれる年長児と嬉しそうな表情の年少

児。その姿にお互い信頼し合っていると感じます。年長児の思いやりをもった心に感心させられることも多いです。皆今から夏の遊びを楽しみにしています。季節ならではの遊びを提供し共に楽しみたいと思います。 福永 和美



### \*すみれグループ\*

すみれグループのひまわり組では1歳から3歳までの子どもたち5名が元気いっぱいに生活しています。最近「となりのトトロ」が大

ブームです。「となりのトトロ トートロ」とみんな体をゆらゆら揺らして手を叩きながら歌います。女の子のRちゃん、「めいちゃんみたい(な髪型)にして」と鏡を見ながら毎朝髪をくくりま

「まっくろくろすけでおいでー」と、さつきちゃんとめいちゃんになりきって大きな声で呼びかけます。つい見とれてにっこりと笑顔になります。とっても微笑ましく温かい気持ちになります。

お外では3歳児の子どもたちがジャンゲルジムの高いところまで登って得意な顔をします。「すごいね」と言うこととびっきりの笑顔になります。それを見た1歳児のMくんも真似をしてジャンゲルジムに登りはじめます。まだまだ高いところまでは登れないけれど「負けないぞ」と一生懸命です。



何でもお兄ちゃんたちの真似っこをします。そして大好きなお散歩、「散歩に行くよ」と声を掛け

るとワクワクした表情で我先にと職員と手を繋ぎます。「今日はどこにいこうかな?公園?それとも川を見に行く?」と子どもたちと相談しながら散歩のコースを決めます。子どもたちにとって散歩は大冒険。いつもとは違う景色を見ながら歩くのをとっても楽しんでいきます。

楽しい事大好き、笑顔大好き、おうた大好きな、にぎやかなひまわり組です。 石津 加奈子

### \*いちごグループ\*

仮面ライダーが好きなMくんは「大きくなったら何になるの?」と聞くと「仮面ライダーになる」と笑顔で目をキラキラさせて話をしてくれます。同年齢のお友だちを誘って仮面ライダーになりきって遊んでいる姿を見ると成長を感じました。Iくんは妹のAちゃん

のことが大好きで「Aちゃん遊ぼう」と遊びに誘ったり、妹のことをいつでも気に掛けて声を掛けたりしています。二人で一緒にままごをしたり、追いかけてっこ等をしてしたりして兄妹で過ごすことで絆が深まっています。また、食育の

一環として野菜を育てています。職員と一緒に野菜の苗を植え、毎日水やりをして野菜が育つことを楽しみにしていました。収穫できるくらいまで大きくなつたトマトやキュウリ等を見て子ども達はとても喜んでいました。自分達で大切に育てた野菜は一段と美味しくたくさん食べていました。

中川 久留未



社会福祉法人 神戸真生塾  
**2022年度**  
**事業計画**

つ、その時にしかできない体験を  
 楽しみながら出来るように職員と  
 工夫していきたいと考えます。

**乳児院（真生乳児院）**

今年度も定員30名での事業を推  
 進し、これまで通り1クラス5名  
 で2クラスを1ユニットとした、  
 3ユニット（計30名）の小規模グ  
 ループ体制で運営します。このう  
 ちの1クラスは2020年度から  
 続けている体制で、乳児早期の児  
 の安全と感染防止を目的として、  
 0か月〜4ヶ月未満の乳児のみと  
 しています。保育士・看護師・管  
 理栄養士・調理員、および2名の  
 家庭支援専門相談員（FSW）、  
 里親支援専門相談員、育児指導担  
 当職員、家族療法担当職員、個別  
 対応職員、臨床心理士を配置し  
 て、子どもたちにとって入所から  
 退所にいたるまでの期間を継続し  
 た養育が行われるように特に配慮  
 しています。

**児童養護施設（神戸真生塾）**

年間聖句はマタイによる福音書  
 7章24節〜29節です。そこに描か  
 れている物語は二千年前に描かれ  
 た文章であります。『岩の上に自  
 分の家を建てる』こと、現代でこ  
 そ岩盤の強い土地で深くまで柱を  
 打ち込んで高層ビルや高層マン  
 ションを建設しています。当時そ  
 の様な建物を建築することもな

く、固い岩盤の上に建てるものが  
 安全上大切なことが分からない時  
 代にあったにも関わらず、この様  
 に本質を描かれています。

**児童家庭支援センター**

近年、社会的養育の充実や家庭  
 養育優先が推進されてきた中で、  
 里親家庭を含めた地域の子育て支  
 援も重要なものとなってきていま  
 す。ようやく国も虐待対応だけ  
 なく、虐待予防や再発防止にも力  
 を入れるようになってきており、  
 妊娠期からの切れ目のない支援を  
 目指し子育て支援の抜本的な改  
 革が進んでいこうとしています。  
 そのような中で児童家庭支援セン  
 ターは地域の中の貴重なソトシヤ  
 ルワーク機関として期待されてい  
 ます。

**児童自立生活援助事業**

神戸市から指定管理業務として  
 自立援助ホームを運営して10年が  
 経ちました。今年度もまた、新型  
 コロナウイルス感染症拡大の影響  
 を大きく受けた1年になりました。  
 た。その中で、全国自立援助ホー  
 ム協議会では、自立援助ホームの  
 あり方並びに指針の明確化と内外  
 への周知の為、オンラインで協議  
 を重ねてきました。一人一人、一  
 つ一つのホームが繋がっていて大  
 切にされている。そして、それぞ  
 れに役割があり、その中で入所児  
 童、退所児童、入所打診で出会え  
 た子ども達等、縁あって関わるこ  
 とが出来たすべての人が、出会え  
 て良かったと思えているのか、孤  
 独を感じず日々を過ごしていたの  
 か、そうなるよう今後も子ども達  
 と一緒に成長し続けられるよう努  
 力していきます。

**幼保連携型認定こども園**

2021年度もコロナ禍での保  
 育が続き、感染予防に十分に留意  
 しながら安心して安全な保育を優先  
 に保育を進めてきました。残念なが  
 ら、感染者が発生し、登園自粛を  
 余儀なくされたクラスもありまし  
 た。まだコロナ禍が続きますが、  
 子どもたちが楽しいことを経験で  
 きる機会を大切に保育できるように

**児童自立生活援助事業**

神戸市から指定管理業務として  
 自立援助ホームを運営して10年が  
 経ちました。今年度もまた、新型  
 コロナウイルス感染症拡大の影響  
 を大きく受けた1年になりました。  
 た。その中で、全国自立援助ホー  
 ム協議会では、自立援助ホームの  
 あり方並びに指針の明確化と内外  
 への周知の為、オンラインで協議  
 を重ねてきました。一人一人、一  
 つ一つのホームが繋がっていて大  
 切にされている。そして、それぞ  
 れに役割があり、その中で入所児  
 童、退所児童、入所打診で出会え  
 た子ども達等、縁あって関わるこ  
 とが出来たすべての人が、出会え  
 て良かったと思えているのか、孤  
 独を感じず日々を過ごしていたの  
 か、そうなるよう今後も子ども達  
 と一緒に成長し続けられるよう努  
 力していきます。

新任職員紹介

児童養護



鈴木 一也

〔趣味〕 海外サッカーの観戦  
 〔特技〕 スキー  
 〔抱負〕 子ども達と沢山の思い出を作りながら、楽しく過ごしていきたいです。また、自分自身も子ども達と一緒に成長できるように努力します。よろしくお願ひします。



乳児院



大岸 博美

〔趣味〕 バイク  
 〔特技〕 何でも美味しく食べる  
 こと  
 〔抱負〕 子どもと関わる仕事がしたいと思ひ乳児院へ入職しました。看護師として子どもたちの健康管理はもちろんですが、子どもたちに寄り添い愛情を持って接して行きたいと思ひます。宜しくお願ひ致します。



黄瀬 香菜絵

〔趣味〕 音楽を聴くこと  
 〔特技〕 ピアノ  
 〔抱負〕 幼いころから保育士の母を見て育ち、将来の夢を考へるようになってから母のように保育士になりたいと思ひようになり、その夢を叶え働いていることを誇りに思ひます。子どもの気持ちに寄り添い、子どものことを一番に考へ動けるような養育者になれるよう頑張ります。

自立援助ホーム



二重 恭子

〔趣味〕 韓国ドラマ鑑賞  
 〔特技〕 一人旅  
 〔抱負〕 今まで経験したことのない経験を一緒にしていきたいと思ひます。遊びであったり、ボランティアであったり、農業であったり。そこから子供たちが元々持っている力を引き出し、楽しんでいって貰う！

ロータリー子どもの家



西村 竜騎

〔趣味〕 面白いガチャガチャを見つけて引く  
 〔特技〕 ボードゲーム  
 〔抱負〕 私は、北海道で生まれ育つてきました。道民には開拓者精神を宿しているため、地域支援という名の大地に積極的に踏み込み、新しい支援を開拓していけるように頑張ります。

保育園



村上 海衣

〔趣味〕 音楽鑑賞  
 〔特技〕 早寝早起き  
 〔抱負〕 私自身未熟者ですが、子ども達の為に一生懸命頑張ろうと思ひます。子ども達と一緒に成長できるように保育していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひ致します。



森 美紅

〔趣味〕 舞台観劇  
 〔特技〕 料理  
 〔抱負〕 子ども達が毎日楽しく過ごせるように温かい関わりを目指していきたいと思ひます。慣れないことが多いと思ひますが、精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



# ありがとうございました

## 寄付並びに見学招待ご芳名

敬称略・五十音順

(二〇二二年一月一日〜二〇二二年六月三十日)

### 寄付金

- 磯田弘子
- 上杉徹
- 岡本美智子
- 数田紀久子
- 学校法人 捜真学院
- 家庭養護促進協会
- (株) 大古曾
- 加渡
- 関西学院 高等部
- 関西学院 宗教活動委員会
- 倉石哲也
- 梶谷博
- 神戸栄光教会
- 神戸教会
- 神戸教会 教会学校
- 神戸昇天教会
- 神戸女学院 チャプレン室
- 神戸女学院 中高部
- 神戸女子大学
- 神戸聖愛教会
- 神戸聖愛教会 女性会
- 菅根信彦
- 住元義則、淳子
- 玉川聖学院

### 寄付物品

- つるかめ管財(株)
- 東洋英和女学院 中高部
- 友藤喜久子
- 鳥京
- 名古屋中学高等学校
- 日本児童養護施設財団
- 日本聾話学校
- 福岡正博
- 福田加奈
- 森田順
- 山本美瑠
- 赤坂由紀彦
- 阿波圭子
- 飯村聖子
- イケメン大集合
- 大社貴子
- 岡本(株)
- (株) ウッデブツデイ
- (株) 沖縄タイムス社
- (株) Daska&
- Desiree



## いごものつぶやき

英語をお姉ちゃんのKちゃんに教えてもらっていたRちゃん。「マイネームイズ〇〇」を「マヨネーズ〇〇」と自己紹介。ちよつと難しかったね。(R・小1女児)

算数の繰り下がりの引き算をしている途中、困った顔をしていたSくん。どうしたの?と尋ねると「指が足らへん:」。お姉ちゃんの指も借りて最後まで頑張りました。(S・小2男児)

散歩に出掛けた際、行先のハーバーランドがうまく言えず、ハーラーバンドと新名所になっていました。(M・小1女児)



月に2回のホームクッキング。野菜の皮むきのお手伝いをしてくれました。何の野菜の皮むきをしてくれるのかな?と聞くと、「がじゃいも!」と。がじゃいも?の皮むきは上手にできました。(M・小1女児)

スープの中に入っていた野菜が苦手なKくんとSくん。「お姉ちゃん、苦手やから減らしていい?」この「インゲンサイ」と「チンゲン菜」がくつついちゃったね。けど、スープの中に入っていたのは「ほうれん草」だったよ。(K・小5男児 S・小5男児)

夕食のおかず「海老芋」が出たので、保育者が「このお芋『海老芋』っていう名前やねん」というとRくんとSくんが真剣な顔で「え:海老芋やねんけど:中に海老入ってるん?」と言いつつ海老芋を細かく切つて確認していました。(R・高3男児 S・小5男児)

## 子育てホットライン(相談専用)

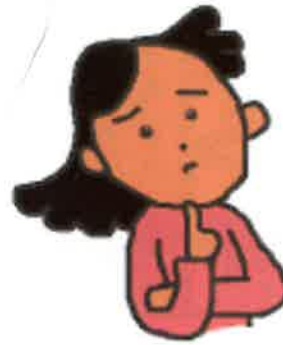
TEL:078-341-6493

年中無休午前9時～午後6時(緊急の場合は夜間も可)

神戸真生塾 子ども家庭支援センター(ロータリー子どもの家)

Homepage <http://www.rotary-kodomoioe.org/>

facebook <http://www.facebook.com/rotary.kodomoioe>



子育てに困ったら  
先ず電話相談!

## 神戸真生塾子ども家庭支援センター

## ロータリー子どもの家

### 『居場所づくり、はじめます』

ソーシャルワーカー  
平部 恵

子ども家庭支援センターロータリー子どもの家での相談件数は年々増加しています。その中でも増加率の高い相談内容が「不登校」です。延件数の推移を見ていくと、2018年度47件、2019年度44件、2020年度103件、2021年度208件と4年間で約4倍になっていきます。2019年まで横ばいだった件数が2020年から急激に増えたことは、やはり新型コロナウイルスによる休校や社会情勢の変化が大きく影響していると思われる。「理由はわからないけど学校に行きたくない」「夜中にゲームをしているから朝起きれない」など様々な声が聞こえてきます。

また、近年社会問題となっているヤングケアラーの子どもたちに出会う機会も増えます。

ています。社会に広く認識され始めたことで、今まで当たり前のように兄弟家族のケアをしていた子どもたちに気付く機会が増えてきているのだらうと思います。

そんな現代を生きる子どもたちに、「自分を受け入れてくれると思える」(安心して過ごせる)そんな場所を提供したいとの思いから『居場所』づくりを行っています。同世代の子ども同士での気楽な交流の場となったり、心を許して気軽に話せる大人がいたり、他者との繋がりがや自分の役割を感じられる機会になればと考えています。現在は自由に漫画を読んだり、体育館でスポーツをしたり、子どもたちのやりたいことを職員と一緒にを行っています。「学校は

嫌だけどここなら来てもいいかも」「家族以外の人と話すことも楽しいな」そう思ってもらえるような、そんな場所になることができれば幸いです。今は外出がしにくい子どもたちもいるかと思いますが、「ゲームをしに来るだけでも大丈夫、switchもあるよ」そんなことも言えるようにしたいと思っていたところ、ホンダカーズ兵庫様に助成していただくこととなり、新しく大きいテレビとゲーム機を導入することができました。子どもたちにとって居心地の良い居場所とは何かを考えながら、これからも進化させていきたいと思っています。ホンダカーズ兵庫様や当センターの活動を支援して下さっている方々、地域の皆様にご心より感謝申し上げます。



# 幼保連携型認定こども園

## 真生きらきら保育園

### めろんぐみ (5歳児)

「この虫なあに?」「このお花、なんていうの?」「みてー!」...子どもたちが夢中になるものでいっぱい季節です。楽しみにしていた大倉山公園の遠足でも「ありをみつけたよ」「このお花なんていうの?」...といろいろなものに興味を示していました。遠足で1番楽しかったことを聞くと「白い大きな滑り台」でした。2番目は「おにぎりを食べたこと」でした。初めの内は恐々と滑っていた滑り台も、慣れてくると楽しくて、何回も繰り返し滑っていました。また、友だちと一緒に外でおにぎりを食べ、楽しくてそしてとてもおいしかったようです。遠足当日は朝から「おにぎり何個もつてきた?」と友だち同士でおしゃべりしながら、楽しみにしていました。保護者の皆様、おにぎり弁当の準備、ありがとうございました。遠足の帰りも元気に「さんぽ」の歌を大きな声で歌いながら帰ってくることができました。

星野真由美



園庭で虫探し



大倉山公園遠足

### みかんぐみ (2歳児)

新年度のスタートから早くも2カ月が経とうとしています。5月は新しいお友だちも迎え、お部屋は毎日楽しい声であふれています。それぞれにお気に入りの場所、お気に入りのおもちゃができてきているようです。友だちとのやりとりを楽しみながら遊ぶ姿に、思わず笑みがこぼれます。

5月の制作では、野菜スタンプをしました。「はらぺこあおむし」を見本に、あおむしの体の部分は

れんこん、周りのお花畑をピーマンでスタンプングしました。制作

を始める前には、ピーマンやれんこんを触ったり、断面を見たり、匂いを嗅いだりして、じっくり野菜を観察する時間を作りました。ピーマンを輪切りにすると、断面

がお花のように見え、スタンプングするたびに「お花になった!」「次はきいろにする」「オレンジのお花いっぱい」など嬉しそうなお花たちでした。素敵なお花畑ができました。

大北 春菜・宇佐美 瞭

### 野菜スタンプング制作「はらぺこあおむし」



### 初めての遠足

橋本美記代

春、4・5歳児が大倉山公園遠足に行きました。その日は曇りがちでしたが気持ち良く戸外の風を



肌で感じながら、グループ毎にゲームで競争したり、公園の大きなすべり台や遊具で遊んだりしました。そして、お昼はお家の方に作ってもらったおにぎりを食べました。おにぎりの中身は何かと楽しみにしながら食べていました。公園には色とりどりの花が咲いており、「お花きれいね!」と子どもたちが教えてくれました。自然物を見て「きれいね」「かわいいね」、お友だちと一緒に遠足に参加して「たのしかったね」と感じる心を大切に保育していきたいと思えました。公園にはシロツメクサがいっぱい咲いていたので、お花を摘んで、プレスレットや指輪を作り、身に付けて楽しみました。大人もきれいな風景を見て感動することがあります。心が動くとも言われます。コロナ禍で行動制限が徐々に緩和されつつありますが、思い切り行動できない状況の中でも、子どもも大人も、心が動く。経験が増えることを願います。

### 神戸真生塾苦情処理委員

- 苦情受付担当者 久山 啓 (子ども家庭支援センター ロータリー子どもの家センター長)
- 川本 真美 (乳児院 真生乳児院 家庭支援専門員)
- 山口 芽久未 (真生きらきら保育園 主幹保育教諭)
- 有吉 みはる (神戸市立立掃助ホーム子供の家主任指導員)
- 苦情解決責任者 上杉 徹 (児童養護施設 神戸真生塾 施設長)
- 数田 紀久子 (乳児院 真生乳児院 院長)
- 橋本 美記代 (保育所 真生きらきら保育園 園長)
- 竹原 祐昭 (神戸市立立掃助ホーム子供の家施設長)
- 第三者委員 岡部 正毅 (当法人監事)
- 中村 悦子 (主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員)
- 苦情受付件数 令和4年1月から6月末まで 4件

### 編集後記

新型コロナウイルスが流行してから2年半が経過しようとしています。まだまだ大変な状況が続いており、子どもたちは変わらず元気に過ごしております。今回も皆様にご報告することができ、47号を無事にお届けできました。これからも嬉しく思います。これからも子どもたちの心に寄り添い、日々楽しい事や嬉しい事を共有しながら共に成長できたらと思います。

最後になりましたが、今回も広報誌を発刊するにあたりご協力頂きました方々、また日頃よりご支援いただいているすべての皆さまにお礼申し上げます。

日浦 栞奈